

令和5年度
児童相談所一時保護所外部評価報告書

令和5年12月
横浜市児童福祉審議会
児童相談所一時保護所外部評価委員会

児童相談所一時保護所外部評価報告書

1 趣旨	1
2 評価委員会の概要	1
(1) 児童相談所一時保護所外部評価委員	
(2) 評価方法	
(3) 評価の内容とポイント	
(4) 対象施設	
(5) 評価委員会の開催日程と検討内容	
3 領域ごとの評価結果	3
(1) 子どもの権利擁護	
(2) 子どもの特性に応じた適切な援助	
(3) 学習援助・教育への配慮	
(4) 安全で快適な生活	
(5) 施設運営	
4 総合的評価結果	8
5 資料編	11
(1) 入所児童アンケート用紙	
(2) 児童相談所一時保護所入所児童 権利擁護のための外部評価表(令和5年度使用)	

1 趣旨

横浜市では、児童虐待の増加に伴い、一時保護を要する児童も増え、令和5年4月現在、児童相談所に付設する一時保護所は4か所（定員177人）となっている。

一時保護所は、子どもの安全を確保する場所として、“子どもにとって最後の砦”とも言われる場所であり、一時保護中の子どもの最善の利益が十分考慮され、その人権が尊重されることが重要であり、基本となる。

そのため、本市では一時保護中の子どもの権利擁護と一時保護所運営の質の向上を図るため、児童福祉審議会児童部会一時保護所外部評価委員会において外部評価を行っている。各児童相談所一時保護所の運営については、毎年度、自己評価を実施するとともに、本委員会では、1か所の一時保護所について外部評価を行うこととしている。

本年度は、南部児童相談所一時保護所を外部評価の対象とし、その運営について外部評価を行った。

なお、同児童相談所は、平成30年度に外部評価が行われている。

2 評価委員会の概要

(1) 児童相談所一時保護所外部評価委員（五十音順、敬称略）（◎：委員長）

児童福祉審議会委員及び臨時委員である5名の委員により構成する。

- ◎池 宗 佳名子 委員（神奈川県弁護士会 弁護士）
- 市 川 泰 広 委員（横浜市立大学附属病院小児循環器科 助教）
- 大 塚 ちあり 委員（横浜市教育委員、元小学校長、國學院大學講師）
- 沖 野 真砂美 委員（横浜市主任児童委員連絡会 副代表）
- 松 坂 秀 雄 委員（横浜市教育委員会事務局カウンセラー統括、元大学講師）

(2) 評価方法

「児童相談所一時保護所による自己評価」、「利用者である子どもによる評価」、「外部委員による評価」を組み合わせ、委員会として総合的な評価を行った。

また、子どもによる評価については、外部委員による実地調査でのヒアリングとともに、学齢児に対してのアンケート調査を実施した。

【一時保護所の自己評価】

◎評価表をもとに、一時保護所全体で議論し、全員参加により評価する（外部委員による評価と同一の評価表使用）。

【子どもによる評価】

◎学齢児にアンケート調査を一斉に実施する。また、必要に応じて外部委員によるヒアリングも行う。

【外部委員による評価】

◎外部委員が現地でヒアリング等を行いながら評価表に基づいて評価する。

(3) 評価の内容とポイント

別添の評価表により、「子どもの権利擁護」、「子どもの特性に応じた適切な援助」、「学習援助・教育への配慮」、「安全で快適な生活」、「施設運営」の5つの領域について評価を行った。

1 子どもの権利擁護	子どもの人権への基本的な考え方と取組姿勢やプライバシーの保護、体罰の禁止などに対する取組を評価する。
2 子どもの特性に応じた適切な援助	特に配慮が必要とされる子どもを中心に、一人ひとりの特性に応じて、的確なアセスメントや支援プログラムが提供されているか評価する。
3 学習援助・教育への配慮	保護所からの通学はできないため、学習権の保障の視点から学習空間や教材、プログラムについて（幼児については保育活動も含む）評価する。
4 安全で快適な生活	子どもが安全で快適な生活を送るために、住環境や食事などにおいて、どのような配慮がなされているか、必要な支援が提供されているかを評価する。
5 施設運営	職員の人材育成や危機管理など、質の高い支援を行うために必要とされる施設の運営面について評価する。

(4) 対象施設

横浜市南部児童相談所一時保護所

(5) 評価委員会の開催日程と検討内容

- | | |
|-------------------|--|
| 第1回 令和5年9月4日(月) | 一時保護所自己評価結果の報告（全保護所分）
入所児童アンケート結果の報告
南部児童相談所一時保護所の概要説明、
現地調査、書類の調査及びヒアリング |
| 第2回 令和5年9月7日(木) | |
| 第3回 令和5年10月12日(木) | 評価・調査結果の分析とまとめ |
| 第4回 令和5年12月4日(月) | 評価報告書案の検討と修正 |
| 第5回 令和5年12月21日(木) | 一時保護所への評価結果のフィードバック |

3 領域ごとの評価結果

(1) 子どもの権利擁護

ア 意見（評価できるもの）

- ・学童については子ども会議を通じて、また幼児については言語化できない場合でも表情や態度による表現を受け止めようと職員は努めているなど、子どもが自由に意見を表明できるよう子どもと職員との関係づくりに取り組んでおり、このことは非常に重要なことである。

イ 意見（改善が必要なもの）

- ・子どもの権利擁護の研修は読み合わせのみでは、本質理解には及ばず、解釈もまちまちとなり、研修としては不十分である。
- ・新型コロナウイルスへの対応以降に男女の日課の違いが生じているとのことだが、新型コロナウイルス対策が緩和されてきている中では、安易に定着させるのではなく、戻すことが可能な日課は戻した方がよい。
- ・子どもの時間軸と大人の時間軸の違いで、子どもをせかす場合もあるだろうが、その後のフォローが大切である。
- ・性的少数者等（LGBT等）については、研修ができておらず、対応の体制ができていない。
- ・プライバシー保護は、マニュアルはあるものの研修が実施できていない。施設のハード的な制約は仕方ない部分ではあるが、施設の移転により解決を期待する。
- ・子どもにヒアリングをしたが、弁護士がアドボケイトとして来所している趣旨が児童に正しく伝わっていないと感じる。アドボケイトは子どもが考えや意見を言いやすいように支援していくことを職員が認識していないと、子どもも認識するのは難しい。
- ・セクシャルハラスメントについては、研修以外に日常的に適切に対応できているか確認する仕組みがない。

ウ 提案事項

- ・研修では、事例検討など具体的な事案でどうだったかを共有すること。その上で、子どもに関わる職員全員が事実としての事象にある本質を理解し、一人ひとりが自分の言葉で子どもの人権を守ることはどういうことなのかを語れるようになること、そして、子ども自身が自己的人権が守られていると感じることを目標として取り組んでほしい。
- ・性的少数者等（LGBT等）への対応は、事例を集めて4児相で共有すること。事例の検討を通して、感度を上げ、ハード面の対応などにもつなげていってほしい。対応は、教育委員会の内容と重なるところも多いと考えられることから、教育委員会事務局の性的少数者等（LGBT等）の研修資料（Eラーニング）などと連携できるとよい。

- ・プライバシー保護の研修は、パワーポイントや簡単な動画を用いるなど資料を工夫し、空き時間に気軽にできるような工夫を検討してほしい。そして、皆で集まるときに事例検討をすることも検討してほしい。
- ・アドボカシーについては、まず、職員が正しく理解した上で、子どもが考えや意見を言えるような仕組みづくりを進めてほしい。
- ・セクシャルハラスメントについては、同性同士でも発生する等、まず、職員が正しい知識を持つことが大切である。そして日常的な仕組みとして、簡単なチェック項目を設けて、定期的な会議の場などで確認し合うなどの取組も検討してほしい。
- ・項目修正（I-1-(3)）
「せかしたり強制したりせずに、おだやかに分かりやすい言葉で話をしている。」を「おだやかで分かりやすい言葉で話している。せかす必要がある場合は、理由も説明している」に変更してはどうか。
- ・項目修正（I-2-(1)）
「プライバシー保護について職員に徹底している」を「プライバシー保護について職員に徹底し、研修を行っている」に変更してはどうか。

(2) 子どもの特性に応じた適切な援助

ア 意見（評価できるもの）

- ・一時保護中の子どもが家庭復帰する際に必要なことは何かを常に意識し、職員が対応していることは素晴らしいことなので、是非続けてほしい。
- ・障害のある子どもや健康上配慮が必要な子どもへの対応は、限られた人員や環境の中で精力的に取り組んでいる。

イ 意見（改善が必要なもの）

- ・障害のある子どもへの対応の際に個室を用意できない、また、定員超過や人員配置の課題から1対1で対応できない。職員はそのような中での対応の難しさを感じていると思う。
- ・職員の急な休暇等があった場合の職員の確保や、その際に健康上の配慮が必要な子どもがいる場合の夜間対応に苦慮している。
- ・特性により感情のコントロールができない子どもへの対応で、職員の共通理解がないと、対応の違いが職員間で生じてしまう。職員も一時保護所としての方針がないことにより対応に不安を感じるのではないか。
- ・児童相談所の相談部門と一時保護所の物理的な距離の課題もあり、担当児童福祉司との密な連携が困難な状況にある。一時保護所側は、子どもが家庭復帰する際に必要なことは何かを常に意識しながら対応して退所の時期等を見極めているが、児童福祉司は、万全を期して家庭復帰させようと考え、一時保護所とは異なる判断をする場合がある。このような場合に、子どもが不安定にならないようにこまめな情報のやり

とりが必要になるがそれがなく、そのズレがなかなか解消できない。

ウ 提案事項

- ・障害のある子どもや健康へ配慮が必要な子どもに対して、体制が薄くなる夜間帯の体制確保を図ってほしい。
- ・特性により感情のコントロールができない子どもへの対応については、研修を開始したということだが、技量のある職員の配置・育成・環境整備を更に進めていってほしい。
- ・外国籍及び外国につながる子どもに対して、小児科などで行っているように、絵を用いて説明する等のコミュニケーションの工夫をしてはどうか。また、教育委員会事務局の国際理解担当や日本語支援担当の指導主事への研修の要請をするなどの連携も効果的ではないか。
- ・立地的な制約はあっても、適切な支援のためには、一時保護所と相談部門の認識を共有する必要があり、担当児童福祉司は、週1回程度は連絡を取り、進捗や情報を共有してほしい。また、子どもの気持ちを聞き、児童福祉司と一時保護所の職員と子どもとのつなぎの役割を児童心理司が担うことなども検討してほしい。
- ・項目修正（Ⅱ-2-(3)）
健康上配慮を要する子どもへの適切な対応の項目では、夜間対応についての評価項目が必要ではないか。
- ・項目修正（Ⅱ-2-(8)）
「職員との愛着関係を育むため、担当職員を決め、適切な支援方法をもとに…」を「職員との愛着関係を育むため、担当職員又はチームを決め、適切な支援方法をもとに…」に変更してはどうか。

(3) 学習援助・教育への配慮

ア 意見（評価できるもの）

- ・一人ひとりに対して独自に作成された資料を子どもに提供し、それにより学習到達度を把握して、個別に学習支援できている。
- ・学習に際して、子どもの希望を受け入れることには限界がある中で、創意工夫をされている。
- ・タブレットの活用に向けては、昨年度以降、取組が進んでいる。今後も更なる推進をしてほしい。
- ・年齢に応じた保育のための個別対応などは、少ない人数の中で工夫されている。

イ 意見（改善が必要なもの）

- ・保育における個別のきめ細やかな対応は、新型コロナウイルス対策も行ってきた中では難しい面もあったが、新型コロナウイルスが収束したら、更なる工夫で個別対応も広げていけるとよい。

ウ 提案事項

- ・一時保護所が提供する学習の方法などに対して、子ども自身が評価できるようにして、子どもがどう感じているかを把握する機会を定期的に作り、その結果が年1回の児童アンケートに反映されるような仕組みを作れるとよい。
- ・項目修正（Ⅲ-2-(1)）
「子ども自身の希望を取り入れた学習プログラムが整備されている」を「子ども自身に合った学習の方法や希望を取り入れている」に変更してはどうか。
- ・項目追加（Ⅲ-2-(1)）
設問の最後に、「上記項目について、子ども自身の評価を取っている」を追加してはどうか。

(4) 安全で快適な生活

ア 意見（評価できるもの）

- ・食育の取組で、食器の配置やマナーの指導、季節に応じて食材の使用やテーマを決めていることなどにより、食べることの楽しさを提供できている。
- ・必要量の摂取やアレルギーチェックも綿密に行っている。
- ・衣類については、集団生活の特性から必ずしも中高生が満足するものではないが、月に1回フリーマーケットのように選ばせる機会を設けるなど、複数種類から選択ができるよう、工夫がなされている。

イ 意見（改善が必要なもの）

- ・プライバシー保護のための個室対応は、ハード的な制約により現在は対応が難しいが、移転後の改善に期待したい。

ウ 提案事項

- ・項目修正（Ⅳ-1-(1)）
「行事等のプログラムは、スケジュールに追われることのないよう実施している」を「行事等のプログラムは、子どもの状況に合わせて、無理のないスケジュールとなるように実施している」に変更してはどうか。
- ・項目修正（Ⅳ-3-(2)）
「個人のスペースには、必要最小限の私物の持込みができるよう」を「個人のスペースには、当該個人にとって必要最小限の私物の持込みができるよう」に変更してはどうか。
- ・項目修正（Ⅳ-5-(1)）
「年齢や発達段階、好みに合わせて、子ども自身が衣服を選択できる機会を設けている」を「年齢や発達段階に合わせて、複数の選択肢から、子ども自身が衣服を選択できる機会を設けている」に変更してはどうか。

(5) 施設運営

ア 意見（評価できるもの）

- ・近隣の関係機関との連携については、隣接の施設とは連携が取れている。また、学生ボランティアも施設運営に良い影響を与えている。

イ 意見（改善が必要なもの）

- ・(2) の項目でも記載したが、児童相談所の相談部門と一時保護所間の物理的な距離もあるが、必要な際に児童福祉司もしくは他の職種とも連携が取れるようにしてほしい。
- ・メンタルヘルスや救急救命等の研修は、参加の必要な職員が参加できていないことがあるため、参加者の募り方や受講に当たっての工夫が必要である。
- ・緊急時の連絡体制・対応方法などが整理されたマニュアル等はないとのことだが、不審者等が発生したときに、具体的に何をすべきかを全ての職員が知っておく必要がある。
- ・職員体制等の問題から、希望する全ての職員が研修を受けることが難しい状況であり、そのような中、外部研修結果を職員会議や回覧で共有する等しており、できる範囲で工夫もなされている。研修実施主体側によるところが大きいものの、可能な限り Zoom 等遠隔でも参加できるものについては、積極的に取り入れられるようにしてほしい。

ウ 提案事項

- ・衛生管理や感染症対策は、マニュアルごとにシールを貼るなど、誰に共有すべきものを明示するとよいのではないか。
- ・メンタルヘルスは、研修の必要な職員が研修に参加できない場合でも、メンタルヘルスのチェックや相談室があるなどの事実を知ってもらうなどの対応が必要ではないか。また、知識の詰め込みだけでなく、ヨガやマインドフルネスのような研修そのものが対策になるような内容なども検討してみてはどうか。
- ・項目追加（V-3-(5)）
不審者対策では、「子ども自身が自分を守る方法を知っている」という項目があってもよいのではないか。
- ・項目修正(V-4-(1))
「プライバシーの尊重を前提として、一時保護所の概要などを、地域の関係機関に情報提供している。」を「プライバシーの尊重を前提として、一時保護所の概要などを、必要に応じて地域の関係機関に情報提供している。」に変更してはどうか。

4 総合評価結果等

(1) 総合評価結果

今回の評価にあたって、事前に南部児童相談所の一時保護所に自己評価をしていただいたが、各評価項目において厳しめの自己評価を行う傾向が見られた。設問自体に課題があったものもあるが、設問のねらいの部分は十分理解しており、実際は子どもの状況に合わせて工夫して対応できている内容も少なからず見られた。日々、一時保護所の職員が、一時保護中の子どもとの信頼関係を築いていくために努力していることが今回の調査で確認できた。

一時保護される子どもたちにとって何より大切なことは、一人ひとりが大切にされていると子どもたち自身が感じることである。その体験こそが、子どもたちの権利そのものだ考える。一時保護所の生活では集団指導の側面もあるが、その中で、一人ひとりの意見を尊重し、配慮がされるよう、職員の更なる意識の醸成を期待したい。

「子どもの権利擁護」などの大きなテーマは、抽象的な理解となりがちだが、事例検討など具体的な事案にどう対応するかを共有することが大切だと考えられる。その上で、職員全員が事実としての事象にある本質を理解し、一人ひとりが自分の言葉で「子どもの人権を守ること」はどういうことかを語れるようになることを目標として取り組むことが望まれる。

ヒアリングをしていく中では、ローテーション等の勤務体制による研修受講の難しさも複数の場面で聞かれた。具体的な事例の共有や、手軽にできる手法の工夫は多くの取組に共通すると考えられるので、ぜひ工夫して取り組んでほしい。また、性的少数者等（LGBT等）、セクシャルハラスメント、アドボカシーなどの課題は、まずは職員が正しく理解をし、その上で子どもへの具体的な対応や支援につなげていくことが大切だと考える。

設備面では、南部児童相談所の一時保護所は、児童相談所の相談部門とは離れた場所にあることや築年数が経過していることに起因して、相談部門との連携やプライバシーに配慮した対応などが低い評価となる傾向にあった。しかし、現施設においても相談部門との連携などは、工夫してできることもあるため、改善を期待したい。ハード的な課題で現時点では改善の難しいものは、次年度に予定されている移転に合わせて改善されることを期待したい。

緊急時の対応では、夜間における子どもの健康上の異変や、不審者侵入等の不測の事態への対応として、マニュアルの整備や職員間の対応方法の共有に不安が見られた。事件・事故などの緊急事態が生じたときには横浜市として危機対応が問われるため、組織的な対策を職員間で確実に共有すべきと考える。

最後に、一時保護所に関しては、定員超過や夜間の職員配置をはじめとした運営体制での課題も顕在化している中、児童福祉法改正に伴い、新たな児童相談所の整備や、一時保護施設の設備及び運営の基準が新たに制定される動きもあると聞く。児童相談所を取り巻く状況が過渡期にある中、これらの機会を捉え、将来を見据えて、課題解決に向けて

対応していくことを期待したい。

(2) 項目修正等の提案

・項目修正（Ⅰ-1-(3)）

「せかしたり強制したりせずに、おだやかに分かりやすい言葉で話をしている。」を「おだやかで分かりやすい言葉で話している。せかす必要がある場合は、理由も説明している」に変更してはどうか。

・項目修正（Ⅰ-2-(1)）

「プライバシー保護について職員に徹底している」を「プライバシー保護について職員に徹底し、研修を行っている」に変更してはどうか。

・項目修正（Ⅱ-2-(3)）

健康上配慮を要する子どもへの適切な対応の項目では、夜間対応についての評価項目が必要ではないか。

・項目修正（Ⅱ-2-(8)）

「職員との愛着関係を育むため、担当職員を決め、適切な支援方法をもとに…」を「職員との愛着関係を育むため、担当職員又はチームを決め、適切な支援方法をもとに…」に変更してはどうか。

・項目修正（Ⅲ-2-(1)）

「子ども自身の希望を取り入れた学習プログラムが整備されている」を「子ども自身にあった学習の方法や希望を取り入れている」に変更してはどうか。

・項目追加（Ⅲ-2-(1)）

設問の最後に、「上記項目について、子ども自身の評価を取っている」を追加してはどうか。

・項目修正（Ⅳ-1-(1)）

「行事等のプログラムは、スケジュールに追われることのないよう実施している」を「行事等のプログラムは、子どもの状況に合わせて、無理のないスケジュールとなるように実施している」に変更してはどうか。

・項目修正（Ⅳ-3-(2)）

「個人のスペースには、必要最小限の私物の持込みができるよう」を「個人のスペースには、当該個人にとって必要最小限の私物の持込みができるよう」に変更してはどうか。

・項目修正（Ⅳ-5-(1)）

「年齢や発達段階、好みに合わせて、子ども自身が衣服を選択できる機会を設けている」を「年齢や発達段階に合わせて、複数の選択肢から、子ども自身が衣服を選択できる機会を設けている」に変更してはどうか。

・項目追加Ⅴ-3-(5)）

不審者対策では、「子ども自身が自分を守る方法を知っている」という項目があつて

もよいのではないか。

- ・項目修正(V-4-(1))

「プライバシーの尊重を前提として、一時保護所の概要などを、地域の関係機関に情報提供している。」を「プライバシーの尊重を前提として、一時保護所の概要などを、必要に応じて地域の関係機関に情報提供している。」に変更してはどうか。

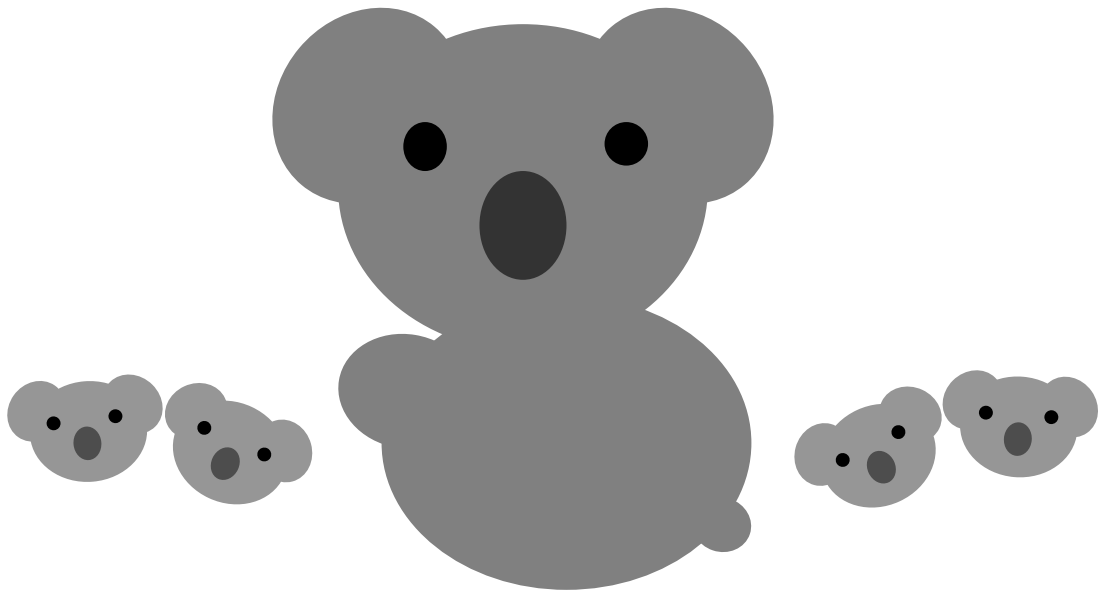
5 資料編

◆入所児童アンケート用紙

◆児童相談所一時保護所入所児童 権利擁護のための外部評価表（令和5年度使用）

アンケート(一時保護所の生活について)

いちほごしょ せいかつ あんぜん あんしん
一時保護所での生活を「安全で安心できる場所」にするために、
みな かん おも き
皆さんが感じていることや思うことを聞かせてください。
しつもん きにゆうらん ことば か
質問に対し、○をつけたり記入欄に言葉で書いたりしてください。
ばあい こた
わからない場合は答えなくてもかまいません。



↓あなたのことをお聞かせください。

※ ほごしょ き ひ れいわ ねん がつ
保護所に来た日 (令和 年 月)

※ がくねん しょうがく ねん しょうがく ねん ちゅうがく ちゅうそついじょう
学年 (小学1~3年・小学4~6年・中学・中卒以上)

◆ **日課**について

- 1 自由に過ごせる時間は多いですか？
①多い ②ちょうど良い ③少ない
- 2 自由時間にできること（ゲーム、トランプ、将棋、読書 など）の種類は多いですか？
①多い ②ちょうど良い ③少ない
- 3 学習以外の活動（午後の活動等）の種類は多いですか？
①多い ②ちょうど良い ③少ない
- 4 学習以外の活動（午後の活動等）の時間は多いですか？
①多い ②ちょうど良い ③少ない
- 5 学習の時間は多いですか？ ①多い ②ちょうど良い ③少ない
- 6 学習の内容はむずかしいですか？
①むずかしい ②ちょうど良い ③やさしい

◆ **食事・おやつ**について

- 7 食事はおいしいですか？ ①おいしい ②ふつう ③おいしくない
- 8 食事の量はどうか？ ①多い ②ちょうど良い ③少ない
- 9 メニューはいろいろあり食事が楽しみですか？
①とても楽しみ ②楽しみ ③楽しみではない
- 10 おやつはおいしいですか？ ①おいしい ②ふつう ③おいしくない
- 11 およつのはどうか？ ①多い ②ちょうど良い ③少ない

◆ **生活全体**について

- 12 楽しいことはありますか？ ①よくある ②時々ある ③あまりない
（どんなことですか？）
- 13 いやなことや困っていることはありますか？ ①あまりない ②少しある ③たくさんある
（どんなことですか？）
- 14 いやなことや困っていることに職員は相談にのってくれますか？
- 15 よくのってくれる ②少しはのってくれる ③あまりのってくれない
- 15 この生活で変えてほしいことや、こうなれば良いなと思うことがあれば書いてください。
（ ）
- 16 外部評価委員（生活について相談にのってくれる人）に話をしたいことがありますか？
①ある ②ない

児童相談所一時保護所入所児童 権利擁護のための外部評価 評価表

<目次>

評価領域Ⅰ 子どもの権利擁護

評価分類Ⅰ-1	権利擁護の意識・人権への配慮
評価分類Ⅰ-2	プライバシーへの配慮
評価分類Ⅰ-3	意見表明
評価分類Ⅰ-4	子どもを守る取組

評価領域Ⅱ 子どもの特性に応じた適切な援助

評価分類Ⅱ-1	子どもの状況把握とアセスメントの的確さ
評価分類Ⅱ-2	一人ひとりに応じた適切な対応
評価分類Ⅱ-3	入退所時の対応と児童相談所の他部門との連携

評価領域Ⅲ 学習援助・教育への配慮

評価分類Ⅲ-1	学習権への配慮
評価分類Ⅲ-2	子どもに応じた学習支援
評価分類Ⅲ-3	保育活動

評価領域Ⅳ 安全で快適な生活

評価分類Ⅳ-1	適切・快適な生活への配慮
評価分類Ⅳ-2	いきいきと遊べる空間の確保
評価分類Ⅳ-3	快適な生活が営まれる住環境への配慮
評価分類Ⅳ-4	食事の工夫
評価分類Ⅳ-5	衣服の着用と管理
評価分類Ⅳ-6	適切な入浴
評価分類Ⅳ-7	安心できる睡眠の確保
評価分類Ⅳ-8	適切な排泄指導

評価領域Ⅴ 施設運営

評価分類Ⅴ-1	職員間の情報共有・連携
評価分類Ⅴ-2	職員の技術の向上、人材育成
評価分類Ⅴ-3	健康管理・安全管理
評価分類Ⅴ-4	地域や関係機関との関係
評価分類Ⅴ-5	実習・ボランティアの受け入れ

総合的な評価～全ての領域評価を終えて～

評価領域 I 子どもの権利擁護

評価分類 I-1 権利擁護の意識・人権への配慮

評価項目 I-1-1 (1)

権利擁護についてマニュアル等に定め、職員への周知を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	一時保護所の運営マニュアルなどに子どもの最善の利益等の観点から権利擁護を盛り込み取り組んでいる。※	
	標語などの掲示等により、権利擁護について職員に周知している。	
	運営マニュアルなどの定期的な見直しを行っている。	
	職員会議での検討や権利擁護の研修を行い、取り組んでいる。	
B	Aの中の※に該当したうえに、Aの中の他のいずれ2つに該当する。	
C	Aの中でいずれか1～2つに該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I-1-(2)

《外部委員評価シート》

権利について、子どもへの説明・周知を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	子どもが一時保護の理由を理解し、了解するよう、年齢に応じた説明をしている。	
	「一時保護所のしおり」、標語などの掲示などにより、権利に関する考え方について、子どもに周知している。	
	権利擁護の取組として、意見箱を投函しやすい場所に設置し、提案された内容については早期に対応している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I-1-(3)

子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	子どもに対して、威圧的な言葉を使ったり、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮している。	
	せかしたり強制したりせずに、おだやかに分かりやすい言葉で話をしている。	
	子どもの気持ちや発言を受け入れられるように配慮している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I-1-(4)

《外部委員評価シート》

性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	生活の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていない。	
	順番、グループ分けなど、必要がある場合を除き、性別にしていない。	
	子どもに対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしている。	
	無意識に性差による固定観念で指導をしていないか、職員同士で反省する仕組みをつくっている。	
	LGBTQに対する職員の理解や対応の質を高める取組を行っている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1～2つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I-1-(5)

個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	守秘義務の意義や目的を全職員（ボランティア・実習生含む）に周知徹底している。	
	個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、全職員に周知徹底している。	
	個人情報に関する記録（パソコンを含む）は施錠できる場所に保管、管理している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類 I - 2 プライバシーへの配慮

評価項目 I - 2 - (1)

子どものプライバシーの保護に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	子どものプライバシーの保護についてのマニュアル、手引き等を作成している。	
	子どものプライバシーの保護に関するマニュアル等について定期的に検証し必要な場合は見直しを行っている。	
	プライバシーの保護について職員に徹底している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I - 2 - (2)

居室がプライバシーの保護に配慮されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	入室にあたっては、声かけやノックなどをして、子どもの了解を得ている。	
	原則として、居室には、同性職員が入る等の配慮をしている。	
	年齢や発達段階に応じて、プライバシーに配慮した少人数の部屋や個室の整備を進めている。	
	同室児とは必要に応じてパーティションや区切り等でプライバシーに配慮した工夫をしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I - 2 - (3)

《外部委員評価シート》

私物の点検は、プライバシーに配慮した対応を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	<input type="checkbox"/> 同性職員が行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの理解を得ている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども同席で行っている。	
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I - 2 - (4)

見学者・視察者を受け入れる場合、生活をしている子どもに配慮した対応を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	<input type="checkbox"/> 時間帯や日課を配慮した受け入れを行っている	
	<input type="checkbox"/> 居室の見学は原則行っていないが、見学の際には、子どもの理解を得ている。	
	<input type="checkbox"/> 見学者・視察者に会いたくない子どもへの配慮を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 見学者・視察者に保護されている子どものプライバシーの守秘義務について説明している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価分類 I - 3 意見表明

《外部委員評価シート》

評価項目 I - 3 - (1)

生活全般について子どもが自由に意見を表明し、自主的に考える活動を推進している。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	子どもが自由に意見を表明できるよう、子どもと職員との信頼関係づくりに取り組んでいる。	
	子ども自身が、自分たちの生活全般について自主的・主体的な取り組みができるようなこども会議等の活動に取り組んでいる。	
	子どもの個性を尊重し、子どもの希望や意見に可能な限り応えている。	
子どもの希望に応えることが難しい事柄でも、職員会議等で検討の上、応えられない理由を子どもに説明している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

子どもが要望・苦情を訴えやすい仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
A	第三者的委員に、直接苦情を申し立てることができ、第三者的委員からの意見等について早期に対応している。	
	子どもに対して、意見箱・懇談会・アンケート等で積極的に要望や苦情を聞き、早期に対応している。	
	権利擁護の取組として、子どもが意見を提案し、検討できる場（子ども会議など）を設置し、会議で提案された内容については早期に対応している。	
B	要望・苦情を受け付ける担当者が決まっており、事前に子どもや家族に説明されている。	
C	要望・苦情の受付窓口が明確にされていないなど、取り組みが不十分である。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類 I - 4 子どもを守る取組

評価項目 I - 4 - (1)

体罰を行わないよう徹底しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	体罰の禁止について所内の規程等に明記して職員に説明している。	
	体罰の起こりやすい状況や場面について把握し、職員会議などで、子どもたちへの接し方、対応について話し合っている。	
	体罰を伴わない子どもたちへの接し方、対応について研修を行っている。	
職員による体罰の禁止について、子どもや保護者に周知している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I - 4 - (2)

《外部委員評価シート》

いじめなどから子どもが守られる適切な対応を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	職員会議などで子どもの力による支配等の問題や子どものサインの早期発見について話し合い対応している。	
	課題を持った子ども等の入所の場合、観察を密にし個別的な支援を行っている。	
	「一時保護所のしおり」などで子どもたちといじめをテーマに人権意識を育むような話し合いをしている。	
	問題が起きた時、課長等が中心になり、全職員で対応している。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1～2つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I - 4 - (3)

子どもに対するセクシャルハラスメントを行わないよう徹底しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	セクシャルハラスメントの禁止を、職員に対し具体的な例を挙げてマニュアル等で示している。	
	セクシャルハラスメントの禁止について、職員に対し研修を行っている。	
	セクシャルハラスメントの禁止を職員に徹底するため、行われていないことを日常的に会議等で確認している。	
	セクシャルハラスメントがあった場合を想定し、責任職は事実確認を行った上で対応や処分などを行う仕組みを整えている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1～2つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I - 4 - (4)

《外部委員評価シート》

入所児童が警察官による聴取を受ける場合は、人権に配慮した対応を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	一時保護中に来所した警察官の聴取を受ける場合、適切な場所と時間を設定している。	
	警察官が来所する際には、私服や一般車両を使うように依頼している。	
B 警察官の聴取を受ける場合、原則として職員が同席している。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 I - 4 - (5)

児童間のトラブル防止に向けての配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	夜間、男子児童・女子児童が互いの居室へ行き来できないよう、トラブルの防止策が講じられている。※	
	年齢・発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	
	年齢や発達段階に応じた性教育のカリキュラムを用意している。	
性教育についての職員の研修・学習会を実施している。		
B Aの中で※に該当したうえに、Aの中の他のいずれか1つに該当する。		
C Aの中でいずれか1～2つに該当する、または全く行っていない。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価領域Ⅱ 子どもの特性に応じた適切な援助

評価分類Ⅱ-1 子どもの状況把握とアセスメントの的確さ

評価項目Ⅱ-1-1

子ども（必要に応じて家族）に面接し、子どものニーズを正しく押さえたうえで、解決すべき課題の把握（アセスメント）を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	アセスメントにあたり、所定の様式を使用して子ども一人一人の身体状況・生活状況を把握し具体的に明記している。	
	アセスメントにあたり、子ども（必要に応じて家族）と面接している。	
	アセスメントに複数の職員が参加している。	
アセスメントにあたり、担当児童福祉司と必要に応じた調整をしている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－１－(2)

《外部委員評価シート》

子ども一人ひとりの発達の段階に応じた対応を行い、その記録があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	子どもや家庭の個別の状況・要望を決められた書式に記録している。	
	子どもの記録内容は関係する職員に周知している。	
	重要な申し送り事項が記録され、勤務職員が変わる時に伝達されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－１－(3)

子どもに対する支援で必要な情報が職員間で共有化されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	ケース会議が行われ、その内容が記録に残されている。	
	ケース記録をもとに、必要な情報を職員間で共有する機会を設け、活用している。	
	共有する情報は記録され、いつでも確認できるようファイリングされている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅱ－２ 一人ひとりに応じた適切な対応

評価項目Ⅱ－２－(1)

被虐待児童に対し、適切に対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	心理的な支援が必要な子どもへの対応に関する研修やスーパービジョンが行われている。	
	必要に応じて心理の専門家から直接支援を受ける体制が整っている。	
	強引な引き取りへの対応について、職員に周知徹底するとともに、緊急時において協力が得られるよう、警察との連携を図っている。	
	引き取りの可否について担当児童福祉司との連絡を適宜行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

障害のある子どものための環境整備、支援内容の配慮を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっている。	
	障害の特性を考慮し、支援が行われている。	
	障害のある子どもの支援について全職員で話し合える体制ができている。	
障害のある子どもと障害のない子どもとの関わりに配慮をしている。		
B Aの中でいずれか2つは該当する。		
C Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(3)

《外部委員評価シート》

健康上配慮を要する子どもに適切に対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	健康上特別配慮を要する子どもには、医療機関と連携して日頃から注意深く観察するとともに、必要な情報を職員間で共有している。	
	服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら、確実な服薬ができるように支援を行っている。	
	服薬管理の必要な子どもについては、誤薬を起こさないようにマニュアルに沿って適切に管理・実施している。	
	緊急時に対応可能な医療機関と連携を図り、対応方法について職員間で共有している。	
	職員間で医療や健康に関して学習し、知識を深める努力をしている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	上記のいずれか1～2つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(4)

アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	医師や子どものかかりつけ医の指示を受け、適切な対応を行っている。	
	除去食の必要な子どもに対しては、確実な除去ができ、栄養面にも配慮した適切な食事を提供している。	
	除去食や代替食の提供において、他の子どもたちとの相違に配慮している。	
	直接子どもに接する職員全員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報が周知されている。	
	症状悪化時（ぜんそく発作、アナフィラキシーショックなど）の緊急体制が整っている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	上記のいずれか1～2つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(5)

《外部委員評価シート》

非行等の問題がある子どもに適切に対応をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	問題行動のある子どもの改善に向けて、一時保護所としての方針がある。	
	問題行動のある子どもについて、子どもの特性等あらかじめ職員間で情報を共有化し、連携して対応している。	
	必要に応じて、所内各部門と協力し、対応している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(6)

無断外出発生時の対応

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	無断外出に備え、マニュアルなどを用意して、捜査や連絡調整等について適切かつ迅速に対応するように努めている。	
	無断外出中の行動について詳細に聞き取り、無断外出の背景を把握し今後の支援に生かしている。	
	無断外出があった場合、面接、作文等による振り返り等の機会をつくっている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(7)

《外部委員評価シート》

外国籍等の子どもに適切な配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	宗教や文化（言語・表現・食事）、生活習慣、考え方の違いを認め尊重している。	
	宗教や文化、生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるよう配慮している。	
意志疎通が困難な場合は、個別的な対応を行うよう配慮している。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(8)

幼児への対応

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	幼児からのサインについて適切に対応するため、観察を重視している。	
	会議等を通して幼児への対応の仕方を検討するとともに研修の機会を設けている。	
職員との愛着関係を育むため、担当職員を決め、適切な支援方法をもとに一緒にいる時間を大切にしている。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(9)

《外部委員評価シート》

子どもに対し必要な生活習慣の習得を支援しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	年齢や発達段階に応じて、食事、入浴、排泄等基本的な生活習慣が身に付く支援をしている。	
	年齢や発達段階に応じて、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	
年齢や発達段階に応じて、必要な身支度、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。		
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－２－(10)

入所が長期化する子どもへの対応

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	長期化に対応し、所内授業の工夫や学校と連携して学力が低下しないよう配慮している。	
	長期化に配慮し、子どもの意見を反映した個別支援プログラム（外出、調理実習、手芸等）を作成し、ストレスの軽減に努めている。	
子どもに一時保護の長期化の状況を説明し、ある程度の現状認識や見通しがもてる努力をしている。		
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価分類Ⅱ－3 入退所時の対応と所内他部門の連携

評価項目Ⅱ－3－(1)

児童相談所の他部門と適切な連携をとっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	必要に応じて、担当児童福祉司と密接な連携をとっている。	
	子どもの支援について、担当児童福祉司や児童心理司と協議を行い、必要な場合はチームで対応する体制ができている。	
	施設入所が必要な児童については、担当児童福祉司と連携して、施設や学校、地域等の人間関係との分離不安に配慮している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－3－(2)

《外部委員評価シート》

入所時に子どもたちに対して、一時保護所の支援内容を年齢や発達段階に応じた説明が行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	親しみやすい言葉かけをしたり、目線の高さを合わせて話をするなど、子どもの気持ちを理解し、共感するよう取り組んでいる。	
	一時保護所での生活について、「一時保護所のしおり」等を用いて、年齢や発達段階に応じた説明をしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅱ－3－(3)

退所に向けた準備が適切に支援されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	児童福祉司と連携をとりながら、子どもの適切な退所時期について常に情報交換している。	
	施設入所が必要な子どもについては、一時保護所として、子どもと十分話し合うとともに必要な資料や情報提供をしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価領域Ⅲ 学習援助・教育への配慮

評価分類Ⅲ－１ 学習権への配慮

評価項目Ⅲ－１－(1)

教育を受ける機会が保障されているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	※ 平日に授業の科目が組まれている。	
	複数の教員資格を持つ専任職員が授業を担当している。	
	小学生や中学生を別の教室にするなど年齢や発達段階に応じたスペースが提供されている。	
	中学生以上については、在籍校との連携のもとに、定期試験期間中に定期試験を受けることができる。	
B	Aの中の※に該当した上に、Aの中の他のいずれか1つに該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅲ－２ 子どもに応じた学習支援

評価項目Ⅲ－２－(1)

カリキュラムやプログラムが整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	判定テスト等により、子どもの学習到達度がチェックできている。	
	個々のレベルに応じたカリキュラムやプログラムが整備されている。	
	子ども一人ひとりの学習状況が記録され、職員間で共有されている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅲ－２－(2)

用具・教材が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	小学校1年生から中学校3年生までの教科書が用意されている。	
	学習到達度に応じたワークブックや課題プリントが用意されている。	
	入所期間中は、子どもひとりひとりに専用の文房具が用意されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅲ－3 保育活動

評価項目Ⅲ－3－(1)

年齢に応じた保育活動を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	年齢や発達段階に応じた保育を行っている。	
	戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	
	職員や他の子どもとのふれあい遊びや模倣遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかかわりができるように配慮している。	
楽しく遊ぶことができるよう心がけている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅲ－3－(2)

遊具が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	玩具の持つおもしろさや安全性を考慮して、色や形にも配慮して選ぶように工夫している。	
	絵本やビデオ、DVDなど視覚や聴覚による遊具が多様に用意されている。	
体を使って遊べる遊具が多様に用意されている。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価領域Ⅳ 安全で快適な生活

評価分類Ⅳ－１ 適切・快適な生活への配慮

評価項目Ⅳ－１－(1)

子どものニーズに合わせた日課運営が行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	自由時間の過ごし方や行事などのプログラムには、少しでも子どもの意見を反映させることができるよう努力している。	
	行事等のプログラムは、スケジュールに追われることのないよう実施している。	
	行事への参加は、子ども一人ひとりの体調や状況等を考慮して無理な強制をしないようにしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅳ－１－(2)

《外部委員評価シート》

行事・遊びなどの工夫がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	夏のプール、遠足や七夕等、季節に応じた行事が用意されている。	
	学齢児童に対しても、公園や体育館等で思い切り体を使って遊べるメニューが用意されている。	
	図書やテレビ・ビデオ・CDカセット等を備え、子どもの希望や発達段階に応じて、自由時間に使用・閲覧できるようにしている。また、トランプ、将棋、ゲーム機等が用意されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅳ－１－(3)

子ども同士の関係づくりへの配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	居室を決める際には、年齢だけでなく、子どもの状況に配慮するとともに、子ども同士の関係性を見極めながら適時適切に居室変更を行っている。	
	学習場面での机の配置について、学年だけでなく子ども同士の関係性を考慮して席を決めている。	
	子ども同士のいじめやトラブルが生じないように、自由時間にも必ず職員が様子を見て確認している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅳ－２ いきいきと遊べる空間の確保

評価項目Ⅳ－２－(1)

園庭の確保、部外者からのプライバシーの保護等について配慮されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。はばたきについては、ウ及びエに該当する。	
	ア 体を思いきり動かすことができる園庭等が整備されている。	
	イ 園庭が通行者等から見られないような工夫がされている。	
	ウ 一時保護所内で楽しめるような遊具が用意されている。	
	エ 雨天のときに室内で遊べるようなスペースが確保されている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。はばたきについては、ウ又はエのいずれか1つに該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。はばたきについては、ウ及びエ行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅳ－3 快適な生活が営まれる住環境への配慮

評価項目Ⅳ－3－(1)

快適な生活が営まれるような住環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	共有スペース、個人のスペースとも、常に清潔に保たれている。	
	共有スペース、個人のスペースとも、換気、温度、採光、照明等への配慮がなされている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

必要に応じてプライバシーが守れる空間を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	共有スペース、個人スペースとも個人のプライバシーは守られている。	
	個人のスペースには、必要最小限の私物持込みができるよう配慮されている。	
	家族や学校の先生との面会等ができるスペースが確保されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価分類Ⅳ－４ 食事の工夫

評価項目Ⅳ－４－(1)

個々の子どもの心身状態に合わせた食事提供を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	年齢や発達段階、体調、疾病やアレルギー等に配慮した食事を提供している。	
好き嫌いをなくす工夫や子どもの好みなどを献立に反映させている。		
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅳ－４－(2)

《外部委員評価シート》

食事を楽しめるような工夫や子どもの好みを献立に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	アンケート調査などから子どもの食事の好みを把握し、献立に反映させている。	
	食事は温かいものは温かく、冷たい物は冷たくした状態で提供されている。	
	旬の食材を取り入れ、誕生会や行事等には特別なメニューを提供している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅳ－４－(3)

個々の子どもの発達段階に合わせて必要な食事習慣を習得させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうちア及びイに該当し、ウからオは新型コロナウイルス対策の状況に応じて実施している。	
	ア 一般的な食習慣を身に付けるため、食事時間が適切な時間に設定されている。(夕食は6時以降等)	
	イ はしの使い方など、発達段階に応じて習得できるよう支援している。	
	ウ 年齢や発達段階に応じて、片づけなどに関わらせている。	
	エ 年齢や発達段階に応じて、調理等の機会を設けている。	
	オ 一週間のうち2回以上、手づくりのおやつが提供されている。	
B	Aの中でア又はイいずれか1つは該当し、ウからオは新型コロナウイルス対策の状況に応じて実施している。または、ア及びイは行っていないが、ウからオのうち2つ以上を実施している。	
C	Aの中でア及びイは行っておらず、ウからオの1つは該当する又は全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅳ－5 衣服の着用と管理

評価項目Ⅳ－5－(1)

必要な衣習慣の習得を援助しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	年齢や発達段階、好みに合わせて、子ども自身が衣服を選択できる機会を設けている。	
	気候、汚れなどに応じた選択・着替えの衣習慣を習得させるための支援を行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目Ⅳ－5－(2)

衣服の管理の習得を援助しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	年齢や発達段階に応じて、下着の洗濯やたたみができるよう支援している。	
	個々の収納スペースを確保し、「自分の服である」という所有感を持たせるとともに、衣類の整理、保管などについて自己管理ができるように支援している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅳ－6 適切な入浴

評価項目：Ⅳ－6－(1)

入浴の時間・回数、安全面の配慮等は適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	毎日入浴できる、または入浴日以外でも子どもの希望により毎日でも入浴やシャワー浴ができる。	
	子どもの年齢や発達段階に応じて、安全に入浴できるよう職員の体制が整えられている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目：Ⅳ－6－(2)

入浴に関して、子どもの自尊心やプライバシーに配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	脱衣は必ず、ドアやカーテンを閉めた浴室内の脱衣所で行われている。	
	希望があれば個別入浴に対応している。	
	年齢や発達段階により入浴時間等の配慮を行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅳ－7 安心できる睡眠の確保

評価項目：Ⅳ－7－(1)

夜間の不安や夜泣き等に対して適切な対応をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	入眠時に不安や不眠を訴えた子どもに対しては、職員が付き添って話を聞いたりしながら寝かしつけるようにしている。	
	定期的に寝ている状況を観察し、起きている子どもに対しては声かけしながら状況を観察し、必要な対応をしている。	
	必要に応じて、夜間のトイレ等に付き添って声かけ等を行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類Ⅳ－8 適切な排泄指導

評価項目：Ⅳ－8－(1)

おむつ着用児や夜尿児童への配慮、プライバシーの配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	入所時に夜尿の有無を確認し、当該児童と年齢や発達段階に応じて予防のための対応方法について話し合い、支援を行っている。	
	学童児童がおむつを使用する場合は、児童本人が十分にその必要性を理解し、同意できるよう話し合いが行われている。	
	学齢児童がおむつを使用する場合は、風呂場の着衣室等で着脱を行い、他児童に気付かれないよう配慮がなされている。	
	学童児童が夜尿をしてしまったときには、他の子どもにわからないように、職員が布団の手当等をしている。	
	幼児については就寝中も職員が常に確認して、おむつから漏れていた場合は着替えをさせている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価領域 V 施設運営

評価分類 V-1 職員間の情報共有・連携

評価項目 V-1-(1)

子どもへの支援内容や対応方法が共有化されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	係会議が定期的に行われている。	
	すべての職員が、業務日誌等で支援に必要な情報を職員間で共有する工夫がされている。	
	日々の業務の引き継ぎが適切に行われている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 V-1-(2)

児童相談所内の児童福祉司等他の職種との連携が図られているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	担当の児童福祉司が、適時適切に一時保護所と連携しながら児童の支援にあたっている。	
	必要に応じて医学的診断や心理学的判定を受け、日常の支援に生かしている。	
	児童精神科医との日常的な連携が取れている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類V-2 職員の技術の向上、人材育成

評価項目V-2-(1)

職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	職員参加により、定期的（年1回以上）に、自己評価を行っている。	
	質の向上を図るための会議・勉強会が開かれている。	
必要に応じて外部から援助技術の評価・指導等を受ける仕組みがある。		
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	内部研修が定期的（年2回）に実施され、職員・非常勤職員とも必要な職員が必ず受講できる。	
	施設外の研修会、大会等への参加、他の福祉施設での実地研修等が積極的に行われている。	
	研修の成果について、受講者が発表し、他の職員にフィードバックするなどの工夫がされている。	
B	職員の研修ニーズにも配慮し、研修担当者が研修計画を作成している。	
C	施設としての研修計画を作成しておらず、取り組みが不十分である。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類V-3 健康管理・安全管理

評価項目V-3-(1)

子どもの健康管理は、適切に実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	入所時の子どもの健康状態についての的確に把握している。	
	一人ひとりの子どもの健康状態を把握するよう努めている。	
	医薬品や医療器具が準備され、適切に管理されている。	
既往症について保護者及び関係機関から情報を得られるように努め、対応を関係する職員に周知している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する、または全く行っていない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

衛生管理や感染症対策が適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	マニュアルは職員参加により定期的（最低年1回）に見直しを行っている。	
	感染症の発生時の対応について、子どもへの対応方法や配慮事項を全職員が共有している。	
	マニュアルの内容を全職員が共有するため、定期的な研修の実施などの具体策を講じている。	
B 衛生管理、感染症防止に関するマニュアルがある。		
C 衛生管理、感染症防止に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 V-3-(3)

《外部委員評価シート》

職員のメンタルヘルスへの対応が適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	処遇困難な児童などへの対応に係全体で検討、共有化し個人の負担を軽減する取り組みをしているか。	
	メンタルヘルスの相談窓口が、職員に周知されているか。	
	メンタルヘルスの向上を図るための研修が定期的に行われているか。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価項目 V-3-(4)

安全管理のマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	マニュアルは職員参加により定期的（最低年1回）に見直しを行っている。	
	緊急連絡体制が確立している。	
	通報や連絡体制の予行演習、地域の避難場所等への誘導などの訓練を定期的（月1回以上）に実施している。	
	職員が救急救命法を身につけている。	
	救急薬品やAEDが設置され、すぐ使用できる状態になっている。	
B	事故や災害に適切に対応できる具体的なマニュアルを作成している。	
C	事故や災害に適切に対応できるマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	不審者の情報が関係機関又は近隣地域等から得られるネットワークができてい る。	
	不審者等の侵入防止策（出入口の施錠等）が講じられている。	
	不審者等に対する緊急通報体制が確立されている。	
B 外部からの侵入者対策マニュアルが作成されている。		
C 外部からの侵入者対策マニュアルがなく、対策が不十分である。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

無断外出の防止や発生した場合の対策が適切にとられているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	入所児童に対して日頃から無断外出をしないよう指導している。	
	建物の構造が、自由な出入りを制限できるように工夫されている。	
	警察や関係機関との連絡調整が円滑に行われている。	
B	無断外出に備えて、マニュアルなどを用意し、捜索や連絡調整等について適切かつ迅速に対応するよう努めている。	
C	特に配慮していない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

評価分類V-4 地域や関係機関との関係

評価項目V-4-(1)

地域や関係機関との関係は良好か

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の項目のうち全てに該当する。	
	プライバシーの尊重を前提として、一時保護所の概要などを、地域の関係機関に情報提供している。	
	学校等関係機関や地域住民に対し、一時保護所の理解を深めるような活動をしている。	
	入所児童の在籍校との個別の情報交換が必要に応じて行われている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

《外部委員評価シート》

評価分類V-5 実習・ボランティアの受け入れ

評価項目V-5-(1)

実習生の受け入れを適切に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	受け入れにあたり、あらかじめ職員や子どもに基本的な考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	受け入れのための担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	実習目的に応じた効果的な実習が行われるためにプログラム等を工夫している。	
	実習生と職員との意見交換の機会を設けている。	
B	マニュアルに基づき施設の方針、子どもへの配慮等を十分説明している。	
C	マニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の項目のうち全てに該当する。	
	受け入れにあたり、あらかじめ職員や子どもに基本的な考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	受け入れと育成の担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	ボランティアの意見や指摘事項を施設運営に反映させている。	
B マニュアルに基づき一時保護所の方針、子どもへの配慮等を十分説明している。		
C マニュアル等がなく、取り組みが不十分である。		
評価結果の事例や意見等：		

MEMO

総合的な評価 ～すべての領域評価を終えて～

- ・評価領域 I～Vまでの領域評価を行い、評価の総括や、個々の項目では評価しきれない一時保護所の職員の姿勢、一時保護所の対応などを自由記述してください。
- ・評価者の評価実施後の感想なども御記入ください。

《総合的な評価等》

令和5年度
児童相談所一時保護所外部評価報告書

令和5年12月

横浜市児童福祉審議会
児童相談所一時保護所外部評価委員会